



発行元；NPO 法人 MESH サポート
那覇事務所 沖縄県那覇市牧志 3 丁目 2-10
ぶんかテンプス館 3 階

TEL 098-860-9028/FAX 098-860-9029

info@meshsupport.net

～夏号～季刊誌として 2009 年 8 月 1 日発行

多くの支援で 救急ヘリ再開！

～医療過疎地を救うため 再びやんばるの空へ～

「県民の支援で再開できました。心から感謝しています」。

6月13日、救急ヘリの再開セレモニーでNPO法人MESHサポートの小濱正博代表は多くの支援者に対し感謝の想いを伝えました。

去年7月から資金難のため休止していた救急ヘリ・MESHは、民間からの年会費を資金とした運営を目指してきた結果、6月までに再開の条件となる半年分の運航費が確保でき、再開が実現しました。そして、6月15日から住民が待ちに待った救急ヘリが再び沖縄本島北部・やんばるの空を飛び、尊い命を救っています。7月末現在、個人・企業など約9,816人が会員に加入。支援金は67,408,658円が寄せられています。



「救える命を救うために」 NPO法人MESHサポート 小濱正博代表

多くの方々へのご参加やご寄付などの御支援により本年6月15日にMESHが再開可能となりました。スタッフ一同、心より感謝申し上げます。昨年までの運休の間に236件(内26%は中南部、県外の観光者です。)今回の再開後、7月31日までに、既に25件の出動をみております。やはり北部には救急ヘリが必要とされていることを再認識させられる日々です。しかし、来年以降も運航を継続するためには、毎年1億円は用意しなくてはなりません。勿論、厚労省や総務省などの行政への助成金等の申請は随時行っていますが、基本的には会員による互助組織であることには変わりありません。このため運航継続にはサポーター会員10万人、パートナー会員1万人が必要です。再開後も皆様の継続した御支援が必要となります。先行きの見えない不安な社会状況の中で、自分たちの力で医療の安全を確保することは大切ではないでしょうか。皆様のご参加をお待ちしております。ご協力を宜しくお願い申し上げます。

救急ヘリの経緯 MESH SUPPORT



- 2007年6月 北部地区医師会病院全額負担で救急ヘリ運航開始
- 2008年3月 北部へのヘリ配備を求め約7万人の署名を仲井真知事に提出
- 5月 北部地区医師会病院が財政的理由から運航休止を決定
- 6月 北部地区医師会病院の救急部が中心となり

NPO法人設立準備委員会 発足

2008年 7月 救急ヘリ、約1年で236件出動し221人を搬送し運航休止

11月 県がNPO法人「MESHサポート」を認証

2009年 6月 国内初となる民間組織(NPO)による救急ヘリ運航再開

23件22人 搬送

皆様からお寄せ頂いた支援金で、再開から一ヵ月半で救急ヘリは22人を搬送しました(7月末現在)。その中には、ヘリでなければ救えなかった命がありました。また、ヘリがあったから後遺症もなく社会復帰ができた人もいます。(運航開始以来の総数 259件 / 240人搬送)

「命 救われた」73歳 男性 (名護市在住)

6月28日午後3時7分、MESH通信センターに今帰仁消防から「古宇利島で男性が溺れ、意識がない」と要請が入りました。ヘリは直ちに岩淵ドクターと筒井ナースを乗せ離陸。わずか7分後、古宇利島のふれあい広場に着陸し、患者と接触。

ドクターとナースが接触した際、73歳の男性は、意識朦朧、呼吸困難で心肺停止寸前の状態。ドクターが気道を確保する気管挿管を、ナースは点滴を行い処置、男性は一命を取り留めました。

その後、男性は16日間の入院後、後遺症もなく7月14日に無事退院しました。

73歳の男性は、「ヘリがなかったら助からなかった。本当に感謝しています」とコメントを寄せて下さいました。

橋が架かり交通環境が改善された古宇利島ですが、救急車が到着するまでに約30分もの時間を要します。今回のケースでもヘリは救急車の15分前に先着し、迅速な処置が行えました。



「また元気に駆け回っています！」島田 隼君 6歳 (今帰仁村在住)



7月1日午後2時5分、今帰仁診療所から「6歳男児・島田 隼君が溺水で意識朦朧」との要請が入り、ヘリは5分で現場に到着。小濱ドクターと富山ナースが酸素投与と点滴を行い、隼君を病院へ搬送し治療しました。適切な初期治療が功を奏し、3日後に隼君は元気に退院しました。母親の島田めぐみさんは「MESHの皆さんの対応が早かったために息子は助かった。また、医師や看護師さんに励ましてもらい、息子は頑張

ることができた。心から感謝するとともに、ヘリの必要性を痛感しています」とのコメントを寄せてくださいました。

事故から約1カ月、隼君はいつものように元気に駆け回っているということです。

MESHサポートでは年会費千円のサポート会員のほかに
年会費1万2千円のパートナー会員も募集しています!!!
昨年度、年会費を納めて頂いた会員の皆様、今年度も支援をお願いします。
年会費は随時受け付けています。

北部だけの問題ではありません

～ 観光客・中南部からの行楽客も搬送 ～

MESHが再開してから、県外からの観光客や中南部からの行楽客なども搬送しています。

7月4日、5日にはダイビング中の観光客が減圧症、潜水病で搬送されました。4日に恩納村から搬送されたのは、愛知県から観光で沖縄を訪れていた63歳の女性。搬送後、女性は減圧症（呼吸器循環障害型）と診断され、高気圧治療など実施、女性は事故から5日後に後遺症もなく退院しました。

搬送された63歳の女性は、「沖縄にドクターヘリがあって良かった。ヘリのお陰で後遺症もなく地元に戻ることができます」とコメントを寄せて下さいました。

減圧症とは、身体の組織や体液に溶けていた気体が、環境圧の低下により体内で気化して気泡を発生し、血管を閉塞して発生する障害のことで、生涯にわたる神経系の損傷等、重篤な後遺症を招くケースも少なくありません。

また、中南部からバイクでツーリングに来て、事故にあった方々も搬送しています。

夏休みに入って最初の週末、国頭村で立て続けに2件のバイク事故が発生しました。西原町からバイクでツーリングに来た比嘉 祥浩さん（35）は、県道2号線でカーブを曲がりきれず転倒。通りかかった人が通報し、国頭消防がMESHを要請。

救急車では病院収容まで1時間半以上かかる所をヘリはわずか9分で到着、伊地知ドクターと與座ナースが現場で初期治療を開始しました。男性は頸椎を捻挫しましたが、適切な処置の甲斐あって大事には至らず無事、退院しました。

事故に遭った時、比嘉さんは骨盤に痛みを感じ救急隊に伝えたところ、骨盤出血を起こしていると重症になる恐れがあるので直ぐにヘリを要請しますとの言葉に「ヘリがあって助かった」と思ったと事故当時を振り返ります。

そして、「報道で救急ヘリが北部にあるのは知っていたが、正直、他人事だった。でも、今回その必要性を痛感し、ヘリの永続的な運行を望みます」と笑顔で話して下さいました。



事務局からのお知らせ

入会・募金募集

MESHサポートでは、救急ヘリを応援して下さる方々を募集しています。沖縄県北部の救急医療を存続させるために皆様の御協力をお願いします。

振込先口座

金融機関名	口座種類及び店舗番号	口座番号	名義人
沖縄銀行 (ATMを含む振込手数料無料)	名護支店 (普通) 402	1625737	(特非)メッシュサポート
琉球銀行 (振込手数料 無料)	名護支店 (普通) 402	793542	メッシュサポート 代表 小濱 正博
JA 沖縄 (振込手数料 無料)	名護支店 (普通) 079	0021451	メッシュサポート
海邦銀行	名護支店 (普通) 060	0652020	メッシュサポート 代表 小濱 正博
JFマリンバンク (沖縄県信漁連)	本店 (普通) 001	0340766	
ゆうちょ銀行	通常払い込み 01770-5-135567		メッシュサポート
沖縄県労働金庫	名護支店 (普通) 959	3118331	メッシュサポート 代表 小濱 正博

なお、街頭などでの募金活動を行なう場合ホームページで告知した上で行っていきます。

また、上記の銀行口座以外、振込口座を開設しておりませんので、くれぐれもお間違いの無いよう、お願い申し上げます。

最新情報をホームページで配信中

MESHの最新情報をホームページで配信中 <http://www.meshsupport.net/>

季刊誌等の発行を始め、支援者の皆様への情報発信が遅れておりますことをお許しください。

盤石な組織づくりを目指して、今スタッフ一同奔走中です。ご理解のほどよろしくお願い致します。